

G147		日本・京滋の食料と農業	
英名科目名	Food and Agriculture in Japan and the Keiji-area		
大学名	龍谷大学		
連絡先	教育学部 TEL : 075-645-7891 FAX : 075-643-5021		
担当教員	淡路 和則		
開講期間	2021年09月30日(木)～2022年01月13日(木) 2講時 11時00分～12時30分(毎週木曜日)		
開講形態	後期・秋学期	開講曜日・講時	木曜日 2講時
単位数	2	履修年次	1年次以上
会場	瀬田学舎		
授業定員			
単位互換生定員		京カレッジ生定員	
試験・評価方法	平常点 50% : 受講の姿勢、態度を評価する。 定期試験 50% : 最終的な理解度を評価する。ノートやプリント等の持ち込みは不可。		
超過時の選考方法	書類選考		
受講料	30,000円(単位互換履修生は不要)		
別途負担費用			
その他特記事項	出席して話を聞き、積極的に質問することが大切です。日本の農業の姿、食の変化の概要を学びながら、京都・滋賀を中心とした近畿地方の農業や食文化を身近に感じ、学びのタネを発見できることを期待します。  <b>【会場】</b> 龍谷大学瀬田学舎 第1回目の教室については別途「お知らせ」欄に記載します。  <b>【定期試験】</b> 本講義の定期試験は改めてご案内します。ご注意ください。		
パッケージ科目			
低回生受講推奨科目			
講義概要・到達目標			
<b>【講義概要】</b> 本講義は前半と後半の二つに分けられる。前半は、日本各地の農業について紹介し、日本的食生活とそれを支える日本農業の特徴、および食料自給率の低さに象徴される日本の食料生産の課題について解説する。後半は、大学の地元である京都・滋賀を中心に近畿地方において実際に農業や地域おこしに関わっている方々をゲストスピーカーとしてお招きし、地域の特色を生かした具体的な取り組みについて、直接お話しを聞くことに主眼を置く。ゲストスピーカーを巻き込んだ積極的な議論を求めたい。 京都・滋賀を中心に近畿地方において実際に農業や地域おこしに関わっている方々を招聘し、地域の特色を生かした具体的な取り組みについて聞き積極的に議論を行うことを通じて、農業と社会の関係について学ぶ科目。			
<b>【到達目標】</b> (1)日本農業の特徴と問題点を把握する。 (2)京都・滋賀を中心とした近畿地方の農業や食文化の特徴を理解する。 (3)農業が日常生活にどのように関わっているのかを理解する。また、私たちはどのように農業に関わることができるのかを考える。			
<b>【講義方法】</b> 前半は配布資料やパワーポイントなどを用いた講義形式を基本とする。後半はゲストスピーカーから農と食に関する実態、実践を学び、ディスカッションを行う。後半部分はゲストスピーカーの都合等によって内容、順序が入れ替わることがある。			
講義スケジュール			
第01回 日本の国土と地勢			
第02回 日本農業の特徴 : 農地			

第03回 日本農業の特徴	: ひと
第04回 日本農業の特徴	: 技術
第05回 日本農業の特徴	: 資本財
第06回 日本型食生活と食料生産の課題	: 食料消費の変化
第07回 日本型食生活と食料生産の課題	: 循環型社会形成、農業の6次産業化
滋賀県農政水産部から講師を招聘し講演	
第08回 京都・滋賀の農業概論	
第09回 京滋の農と食	: 京都の農業
第10回 京滋の農と食	: 京都の食品加工業
第11回 京滋の農と食	: 京都の農と食に関わる取り組み
第12回 京滋の農と食	: 滋賀の農業
第13回 京滋の農と食	: 滋賀の食品加工業
第14回 京滋の農と食	: 滋賀の農と食に関わる取り組み
第15回	まとめと補論
教科書	特に指定しない。必要な資料を配布する。
参考書	石田正昭編『総合科目「食と農」』(三重大学出版会)(ISBN:4944068271) 必要な参考文献をその都度指示する。